

とどけ!WPI の最新研究 2023

教育関係者のための講座-6

「まだ教科書には載っていない」最先端の研究に触れて、授業や探究指導に活かしてみませんか？

‘冬期うつと炎症を制御する分子’

吉村 崇 教授



名古屋大学
トランスフォーマティブ
生命分子研究所
(WPI-ITbM)

『季節適応機構の解明と 季節性疾患を制御する分子』

冬眠や渡りなど、動物の生理機能は季節によって変化します。ヒトの心疾患や免疫機能、気分も季節の影響を受けます。ユニークな動物に着目した研究から明らかになった動物の季節適応機構と、季節性疾患を制御する分子の探索について紹介します

私たちの生活を変える革新的な生命機能分子「トランスフォーマティブ生命分子」を生み出すため、名古屋大学の強みである合成・触媒化学、動植物生物学および理論科学の融合により新たな研究分野の創生を目指しています。



世界トップレベルの免疫学の基礎研究を進め、感染症・ガン・自己免疫などの疾患における免疫応答の解明と制御を目指します。さらに臨床研究者とともに、ヒトを対象にした研究を進め、創薬・新規治療法開発を加速させています。

白井 太一郎 助教

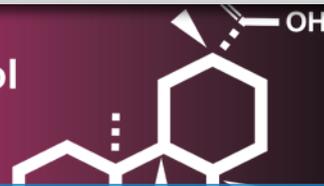


大阪大学
免疫学フロンティア
研究センター
(WPI-IFReC)

『自己免疫疾患の新たな治療ターゲット』

自己免疫疾患とは、本来私たちを病原体から守るはずの免疫機能が、なぜか私たち自身を攻撃し、健康を脅かす病気です。自己免疫疾患の新たな治療ターゲットとなるタンパクの同定と、その機能を制御する化合物分子の探索について紹介します。

Celastrol



2023年 8月1日 (火) 15:00-16:30

参加無料 / 事前申込み (締め切り 7月26日 17:00)

<https://forms.gle/VqLTW4Zapc7wk82L9>



対象：教育関係者（学校教諭）・高校生・一般
形式：オンライン (Zoom meeting)
連絡先：wpioutreach@gmail.com

主催：世界トップレベル研究拠点形成プログラム (WPI) 6 拠点 / 協力：大阪大学21世紀懐徳堂

